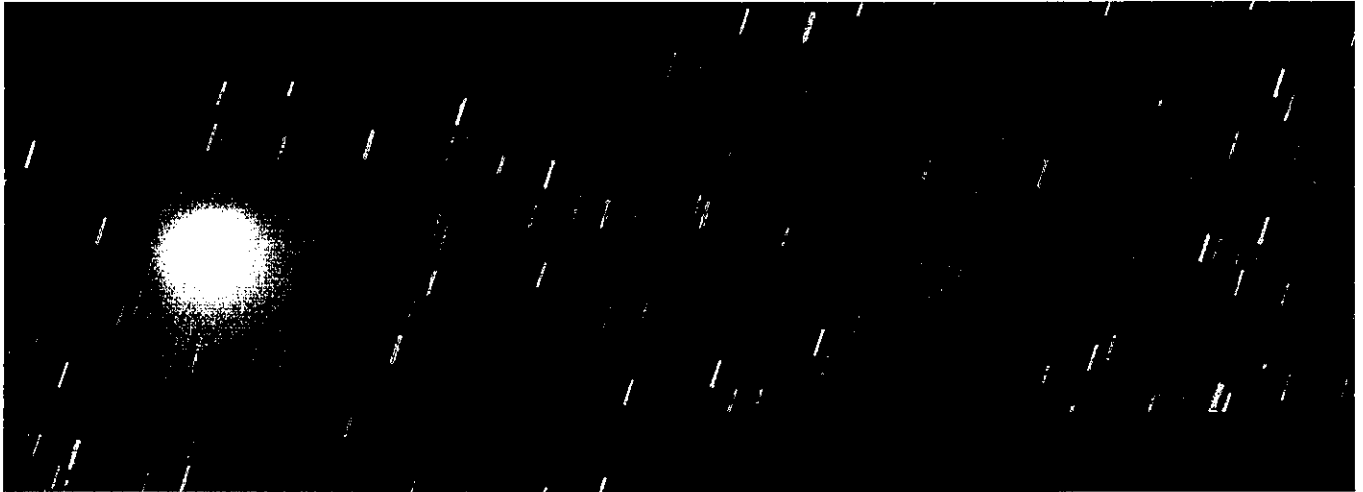




天文台だより

銀河の森天文台
2023 春号
Vol.99

明るくなったZTF彗星 (C/2022 E3) を観測！



2023年1月31日撮影

明るくなった ZTF (ズィーティーエフ) 彗星 (C/2022 E3) を観測しました。上の画像は 2023 年 1 月 31 日に撮影したもので細長く伸びた彗星の尾が淡く写っています。今回の ZTF 彗星は地球最接近時に 4 等台まで明るくなりましたが、陸別では肉眼ではほとんどわからず双眼鏡でぼんやりと見えていました。

ZTF 彗星 (C/2022 E3) は 2022 年 3 月、アメリカのパロマー山で行われている観測プロジェクト「ZTF (Zwicky Transient Facility)」で発見されました。2023 年 1 月 13 日に太陽に最接近し、2 月 2 日の地球最接近の際、約 4200 万 km まで近づきました。約 5 万年ぶりの回帰で、この後は回帰しないとのことでした。

春のイベント情報 !!

☆春の大三角と天体観望会

春の星座を探す目印「春の大三角」から様々な春の天体をめぐる観望会を開催します。皆様のご来館をお待ちしております。

開催日：4月26日(水)～5月7日(日)

説明会：午後7時30分から(土・日・祝日のみ)

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
4月 1日	5:05	17:54	10.4	12:32	3:20
4月 15日	4:40	18:11	24.4	2:29	12:01
5月 1日	4:15	18:30	10.9	13:32	2:34
5月 15日	3:57	18:46	24.9	1:54	13:40
6月 1日	3:43	19:03	12.5	15:41	1:53
6月 15日	3:39	19:11	26.5	1:26	16:19

7年2ヶ月ぶり！！ 低緯度オーロラを観測！

2023年2月28日午前1時から4時頃にかけて、銀河の森天文台屋上に設置された名古屋大学宇宙地球環境研究所陸別観測所の高感度全天カメラで、磁気嵐に伴う弱い低緯度オーロラが観測されたと同研究所塩川和夫教授から発表がありました。陸別で低緯度オーロラが観測されたのは、2015年12月21日以来7年2ヶ月ぶりになります。

銀河の森天文台でも磁気嵐の発生情報を得て、2月27日夜から28日未明にかけて独自にカメラ観測を行っていました。しかし残念ながら今回の低緯度オーロラは非常に弱いものだったため、観測画像でははっきりわかるような赤色は確認できませんでした。今後の太陽活動に期待しています。

2022年度銀河の森天文台 写真展を開催しました！

毎年開催しているイベント「2022年度銀河の森天文台写真展」を2023年3月10日～26日の日程で開催しました。

写真展では、最近の一年(2022年3月1日～2023年2月28日)で撮影した天体や星空の写真を公募し、展示しています。今年も、天文台撮影の18枚に加え、応募された10名13枚を含めて、31枚の写真を展示しました。応募された方、ありがとうございました。

天文行事&暦

4月

- 5 清明(24節気:太陽黄経15°)
- 6 ○満月
- 12 水星が東方最大離角
(光度:0.1等, 離角:19.5°)
- 20 ●新月
 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
- 26-5/7 春の大三角と天体観望会

5月

- 4/26-5/7 春の大三角と天体観望会
- 5 ○満月
 立夏(24節気:太陽黄経45°)
- 15-26 天文台メンテナンス休館
- 20 ●新月
- 21 小満(24節気:太陽黄経60°)
- 29 水星が西方最大離角
(光度:0.5等, 離角:24.9°)

6月

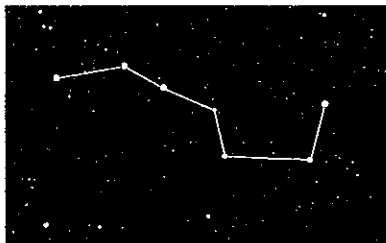
- 4 ○満月
 金星が東方最大離角
(光度:-4.4等, 離角:45.4°)
- 6 芒種(24節気:太陽黄経75°)
- 18 ●新月
- 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)

季節の星探し「北斗七星と春の星」

「北で斗(ひしゃく)の形に並ぶ七つの星」、という意味の北斗七星は、おおぐま座の腰と尻尾にあたる部分です。7つの星のうち6つが2等星なので比較的見つけやすく、春は空の高いところに見えます。北斗七星のひしゃくの先にあたる2つの星の間隔を更に先の方へ5倍延ばすと「北極星」と呼ばれるこぐま座のポラリスにたどり着きます。ちなみにこぐま座も小さなひしゃくの形をしているため、「小北斗七星」とも呼ばれます。

また、北斗七星は春に見頃を迎える明るい星を探すと手がかりにもなります。ひしゃくの持ち手部分の緩やかなカーブを延ばしていくと、うしかい座の1等星アルクトゥールスが見え、更にカーブを延ばすとおとめ座の1等星スピカ、そしてその先には少しくずれた四角形のからす座へとたどり着きます。この北斗七星から始まるカーブを「春の大曲線」と呼び、アルクトゥールスとスピカを結んだ直線と、西側に光るしし座の2等星デネボラを正三角形に結べば「春の大三角」になります。北斗七星をたどって星を探してみましよう。

春に見頃を迎える天体は他にもたくさんあります、ぜひ当館へお越しください！ (三)



ペッコカめぐり「春は銀河の季節」

春の星空の方角には天の川がなく、星や星間ガスなどに邪魔されることがないため、銀河系の外側の様々な銀河が見える季節です。銀河は、渦を巻いているもの、楕円形のもの、細長いもの、そして複数の銀河がつながっているものなど様々な形をしています。しかし、写真では様々な姿を見せてくれる銀河も、望遠鏡で見ると微かな光のシミのようにしか見えないものがほとんどです。銀河は数千万光年彼方というあまりにも遠い場所にあるために微かな光のシミにしか見えないのです。けれどもその微かな光は数千万年という時間をかけて私たちの眼までたどり着いた光です。銀河の光はシミにしか見えないような微かな光ですが、そう考えるとなんだかすごいですよ。(中)



天文台からのお知らせ

- ☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30(昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)となります。
- ☆ 5月15日(月)~26日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

プラネタリウム上映中止のお知らせ

コロナ感染拡大防止のため、コロナ終息までプラネタリウム上映を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)
〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100
URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>
E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs

